

モータースポーツ活動



2007年、トヨタのモータースポーツ活動は50周年となる節目を迎えました。クルマの持つ限りない可能性や素晴らしさをより多くの人びとに伝えるため、トヨタはこれまでさまざまなカテゴリーでモータースポーツに挑戦してきましたが、これからも積極的な取り組みを続けていきます。2007年については「フォーミュラ・ワン世界選手権 (F1)」、米国の「NASCAR*」、日本の「SUPER GT」「フォーミュラ・ニッポン」等のトップカテゴリーへの参戦と、有望なドライバーの育成を柱にモータースポーツ活動を推進していきます。

「F1」において、2006年は表彰台を獲得したものの、前年を上回る好成績を残すことができず、厳しいシーズンでした。参戦6年目となる2007年は、新開発のV8エンジンを搭載し、空力性能や重量配分の見直しによりレイアウトを一新した新型F1カー「TF107」を投入しました。また、ドライバーは実績を重視して昨シーズン同様にラルフ・シューマッハーとヤルノ・トゥルーリを起用し、技術開発面のトップマネジメント体制の強化も図りました。また、エンジン技術を評価され、ウィリアムズにエンジン供給を行っています。

米国の「NASCAR」では、参戦3年目となる2006年は「トヨタ タンドラ」が「クラフツマン・トラック・シリーズ」で12回の勝利を取めるとともにマニファクチャラーズタイトルも獲得しました。さらに2007年には、NASCAR最高峰の「ネクステル・カップ・シリーズ」と「ブッシュ・シリーズ」に「トヨタ カムリ」で参戦しています。

日本では、トップカテゴリーの「SUPER GT」参戦6チームへの支援を継続するとともに、GT500クラスの車両をすべて「レクサスSC430」としてタイトル獲得に挑みます。また、フォーミュラカーのトップカテゴリーである「フォーミュラ・ニッポン」においても、7チーム14台のエンジン供給を継続します。

一方、世界トップクラスで活躍できるレーシングドライバーの育成を目的とした「トヨタ・ヤング・ドライバーズ・プログラム (TDP)」も引き続き推進しています。このプログラムは、意欲と才能に溢れる人材を発掘し、それぞれが実力に応じてステップアップできるような育成プログラムであり、実戦での取り組みとともにF1テストへの参画等、幅広い機会を捉えて資質の向上を図っています。

*: アメリカ合衆国で最大のモータースポーツ統括団体NASCAR (ナスカー、National Association for Stock Car Auto Racing) が統括するストックカーレースの総称。四輪市販車をベースに改造を施した車両(ストックカー)のレースで、主に北米大陸で行われる独自のレースカテゴリー。

2007年F1日本グランプリが富士スピードウェイで開催



2007年9月、富士スピードウェイでF1日本グランプリが開催されます。富士スピードウェイ株式会社は1966年に開業し、世界でも有数の超高速サーキットとして約40年にわたり、数々の国際・国内レースを開催してきました。トヨタは2000年より経営に参画しています。2005年には施設を全面リニューアルし、同サーキットの特徴である長い直線路を生かしながら、コース後半はテクニカルなレイアウトへと変貌を遂げています。富士スピードウェイでのF1開催は、日本初開催となった1976年と翌1977年の過去2回に次いで、30年ぶりとなります。